

**製品名: 切断型 PARP-1 (D214) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09025**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:300
分子量	24kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PARP1 PARP1; ADPRT; PPOL; Poly [ADP-ribose] polymerase 1; PARP-1; ADP-ribosyltransferase
別名	diphtheria toxin-like 1; ARTD1; NAD(+) ADP-ribosyltransferase 1; ADPRT 1; Poly[ADP-ribose] synthase 1
遺伝子 ID	142.0
SwissProt ID	P09874
免疫原	抗血清はヒト PARP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 165-214

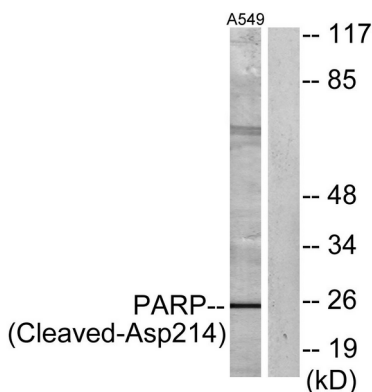
**背景**

この遺伝子は、クロマチン関連酵素であるポリ(ADP-リボシル)トランスフェラーゼをコードしており、この酵素は様々な核タンパク質をポリ(ADP-リボシル)化によって修飾します。この修飾は DNA に依存しており、分化、増殖、腫瘍形成といった様々な重要な細胞プロセスの制御に関与するほか、DNA 損傷からの細胞回復に関わる分子イベントの制御にも関与しています。さらに、この酵素はファンconi貧血の変異部位である可能性があり、1 型糖尿病の病態生理にも関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: NAD (+) + (ADP-D-リボシル) (n) -アクセプター=ニコチンアミド+ (ADP-D-リボシル) (n+1) -アクセプター、機能: クロマチン構造と DNA 代謝に関する限られた数のアクセプタータンパク質のポリ (ADP-リボシル) 化を触媒することにより、塩基除去修復 (BER) 経路に関与する。この修飾は DNA 損傷後に起こり、DNA 鎖切断の修復につながる検出/シグナル伝達経路の必須ステップとして現れます。、その他:NAD(+) の ADP-D-リボシル基は、ヒストンまたは酵素自体の受容体カルボキシル基に転移され、さらに ADP-リボシル基が末端アデノシン部分の 2' 位に転移され、平均鎖長が 20~30 単位のポリマーが形成されます。、PTM:PRKDC によってリン酸化されます。 DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。、PTM: PARP2 によってポリ ADP リボシル化される。、類似性: BRCT ドメインを 1 つ含む。、類似性: PARP $\alpha$  ヘリカルドメインを 1 つ含む。、類似性: PARP 触媒ドメインを 1 つ含む。、類似性: PARP 型ジンクフィンガーを 2 つ含む。、サブユニット: 塩基除去修復 (BER) 複合体の構成要素で、少なくとも XRCC1、PARP2、POLB、LIG3 を含む。PARP2 とホモおよびヘテロ二量体を形成する。PARP3、APTX、SRY と相互作用する。SWAP 複合体は、NPM1、NCL、PARP1、SWAP70 から構成される。TIAM2 および ZNF423 と相互作用する。、

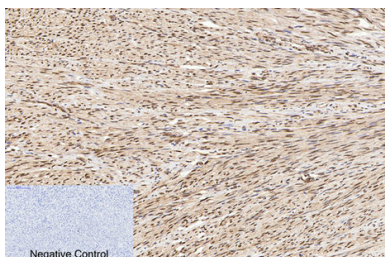
## 研究分野

塩基除去修復

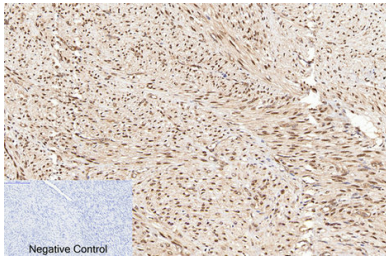
## 画像データ



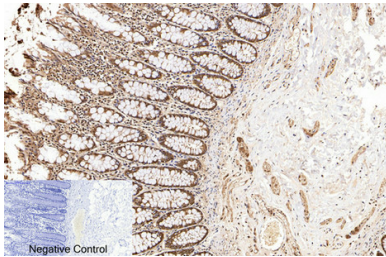
エトポシド 25 $\mu$ M で 24 時間処理した A549 細胞ライセートの PARP (Cleaved-Asp214) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



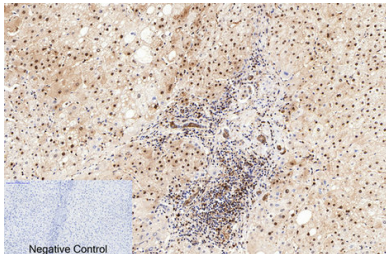
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98 $^{\circ}$ C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



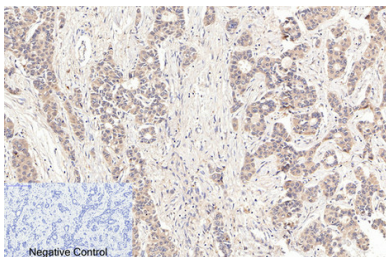
パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



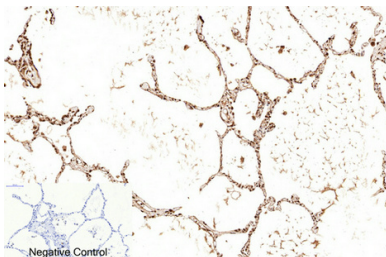
パラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



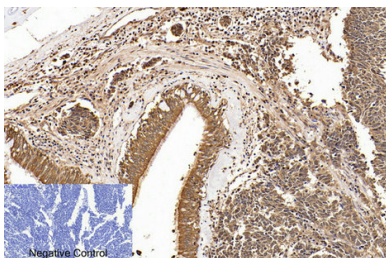
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



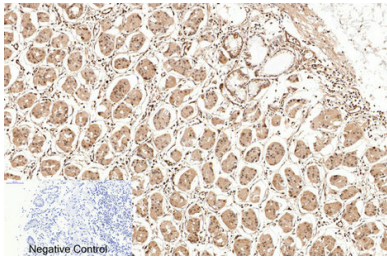
パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃組織の免疫組織化学染色。1. 切断型 PARP-1 (D214) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。